

トレーナー「ウマ娘VS ノー〇e—POWER」

ゴールデンウィーク

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

走るのがトレーナーではなく、トレーナーの車だったら？

目次

こんなレースははじめて

—
1

こんなレースははじめて

走れなくなったサイレンススズカの代わりに稼ぐ方法が見つからなかった俺だが、いいことに気付いてしまった。

トレーナー「車で走ればよくね…？」

そう思った俺は理事長室にレースの申請をしに行った。

今は理事長が出張で不在のため樫本理事長代理が業務を行なっている。

理事長代理「車なんかに乗っている奴ア アウト オブ 眼中 頼まれたって レースなんかさせねえよ」

トレーナー「は？」

平手打ちした後にお前は猿かと散々詰った挙句帰り道にお前を轢くぞと脅してなんとか理事長の許可を取りつけた俺は愛車につ〇ん、ノー〇e—POWERで出走することが可能になった。

このノー〇e—POWERは長距離型の車で、芝、ダート共に使える万能型のクルマだ。

—————

※ウマ娘は丈夫なので車とぶつかっても大丈夫！

実況 「さあやってまいりました優勝たちが集う有馬記念！」

「一番人気はダイワスカーレット！2番人気ウオッカ！3番人気はノーオーPOWER！各者（車）一斉にゲートに入ります！」

解説 「大事なレースですからね！みんな気合い入ってますよ！」

ガシャコン

実況 「さあレースが始まりました！」

ウオッカ 「ダイワスカーレット…お前には絶対に負けられねえ！前日降った雨のせいでインはぬかるんでて上手く踏み込めない…だからか皆インには走らずアウト気味に走ってる…あの車でさえも。」

ウオッカは周囲を見渡す。前方にはダイワスカーレット。そして右横には車が走っている。

車とウマ娘の性能差はさほどない。

むしろ最高速度だけで言えばウマ娘の方に分があると言っている。

そのかわり車は、疲れない。常に出せる限りのスピードを出することができる。

更に車はウマ娘と違ってオフロードでも比較的走ることができるために、このような雨上がりの日には簡単にインをつくことができる。

だからこそ、ウオツカは車からインコースをガードするような形で走っていた。

ウオツカ「あの車さえアウトに残しとけば後はあいつとのタイマンだ！」

しかし、見込みが甘かった。ノー〇e—POWERは曲がりながらもハイスピードを維持して突っ込んでくる。

ウオツカ「な、なに！外からだど!？」

「なめてんじゃねえぞ……外からいかすかよお！」

ウオツカは外に回って車に軽くタックルするように走り、車の進路をズラす。

この車には、弱点がある。

ノー〇e—POWERは一定の速度以下でウマ娘とぶつかりそうになった時、安全センサーが発動して自動的にブレーキがかかり、停止してしまう。そのため、運転手に

とって正面側からウマ娘とぶつかることは致命傷なのである。ウオツカはそれを狙っていた。

車を無視して前に加速を続けたかと思うと突然ペースを緩め、わざと車にぶつかりに行くかのような挙動を見せる。

何度も外と内との駆け引きが続く。

「よおしーインにはこねえな!!!」

長年の勘からそう確信したウオツカはアウト側に張り、ペースを上げるしかし、

ウオツカ「車が消えた…!?

まさか…!」

ノー〇e—POWERはインをブチ抜き、焦ってインに詰めたウオツカと衝突。側面だったために車はそのまま直進し、ウオツカは転倒。そのままレースからフェードアウト

トとなった。

実況「さあ最後のコーナーに突入！先頭は以前一番人気のダイワスカーレット！このまま独走か!!」

ウオツカが転倒したことなど知らないダイワスカーレットはレース開始直後から常に先頭を走っていた。

ダイワ「どこからでも来てみなさいウオツカ…体力にはまだ余力があるわ。」

しかしそれも束の間

ダイワ「ぐっ!!」

実況「並んだ並んだ！ノー〇e—POWERがダイワスカーレットの側面を突いたあああ!!!」

トレーナー「突破口は…右だ」ギューイイイイイイン

右コーナーをアウト気味に走っていたダイワスカーレットの脇腹を貫くかのようにインを攻めるトレーナー。

ダイワ「!？」

ウマ娘としてもドライバーとしても超一流と謳われるマルゼンスキー。彼女らに勝つためにトレーナーは昼夜トレーニングに励む！俺たちのダービーはこれからだ！

—————ご愛読ありがとうございました！